



# あゆみ

JCHO  
二本松病院

二本松市成田町1-553

TEL.0243-23-1231

FAX.0243-23-5086

<http://nihonmatsu.jcho.go.jp>

発行者：あゆみ編集委員会

## 第1回 JCHO 地域医療総合医学会

去る平成28年2月26・27日の両日、地域医療の向上・発展に寄与するため「第1回 JCHO 地域医療総合医学会」がJCHO本部の東京都品川に於いて開催されました。

当医学会のメインテーマは、「チームJCHOによる新しい地域医療のスタート～ダッシュに向け全員参画を～」とされました。「JCHOへの期待、JCHOとしての応え」と題する特別企画をはじめ、地域医療・地域包括ケアへの貢献や総合医の育成をテーマとした、数多くのシンポジウムや一般演題の発表がありました。また、特別講演では、世界的に有名なプロスキーヤーの三浦雄一郎さんによる「～80歳エベレスト登頂～」と題し、70歳・75歳・そして3年前に80歳の世界最高年齢で病気と闘いながらも過酷な状態で世界の屋根と言われるエベレスト山(8,448m)登頂に成功した話を伺いました。特に印象に残ったのは、冒険家としての飽くなき好奇心と夢を追い続ける心でした。

また、「JCHOへの期待、JCHOとしての応え」のシンポジストからは、JCHO病院に期待する事として、他病院や診療所との役割分担を明確にし、連携を図りながら地域包括医療の効果的な展開を求められ、またそれぞれの病院では、地域の中でどの部分に貢献できるか地域と共に考えながらJCHOの使命とする「安心の地域医療を支えるJCHO」を基盤とした地域完結型の医療・介護を目指し努力をすることを再度確認しました。

メディカルスタッフのセッションでは、当院リハビリ

テーション士長(江井 洋技師士長)から、全国JCHO 57病院の地域包括ケア・地域医療活動にかかるアンケート調査の報告がありました。リハビリ部門として今後の地域包括ケアシステムを推進するためには、それぞれの地域の関係機関との連携を進めると同時に、JCHO同志の横のつながりも充実していくことが求められてくるでしょう。その後、一般演題発表を(口演発表4題、ポスター発表1題)当院スタッフからも発表しました。日頃の業務の中で各々取り組んでいる実績に対し、評価と修正を考え、そして今後の課題を見出してさらに研究として取り組んでいる姿勢は大変頼もしく見えました。みなさんととても立派に発表をしてくださいました。

最後に本学会事務局並びに学会関係者の皆様に厚く感謝いたします。

総看護師長 佐藤 妙子

- 看護課 ① 齋藤 美智子看護師長  
鋼製小物の中央化に向けた取り組み
- ② 齋藤 祐美子看護師  
上部内視鏡検査における苦痛緩和の試み
- 放射線科 ① 三浦 勉技師  
内臓脂肪面積と腹囲の関係
- 附属老健 ① 渡辺 翔太介護福祉士  
当施設におけるリスク対策
- ② 小室 英生理学療法士  
脳梗塞の既往がある女性へ二重課題を用いたリハビリ介入にてADLが向上した一症例



# 第1回 JCHO 地域医療総合医学学会に参加しました



JCHO学会に参加できたことは、とても貴重な経験になりました。自分で学術発表して、他院の発表を聞き、もう一度この場で発表したいと強く思いました。自分の考えを伝える事の難しさ、一つの研究に取り組む姿勢、柔軟で幅広い視野を持つ事、色々な事を考えさせられた2日間でした。



**エピソード<都会の洗礼>**  
品川駅到着⇒コインロッカーを探すが見つからない⇒インフォメーションで教えてもらうも空きがない⇒駅逆側の出口まで周り、ようやくロッカーを見つける⇒そのロッカーは100円硬貨専用、そして財布に100円硬貨がない⇒お金を崩そうにも自動販売機がみあたらない⇒駅デパートで両替をお願いするが断られる⇒コンビニを探し、のど飴を買い、ようやくロッカーに荷物を預ける(慣れない革靴で靴擦れが…)⇒学会会場へ  
皆さんも東京に行く時は100円玉をお忘れなく!!

診療放射線科 三浦 勉



「第1回JCHO地域医療総合医学学会」が開催され、一般演題434題と多く会場も入りきれない程の大盛況でした。他に、地域医療・地域包括ケアへの貢献等のテーマも含み、多数のシンポジウムとメディカルスタッフによる特別セッションがあり、その中のリハ職2名、栄養士2名、臨床工学技士2名の計6名による特別セッションにて、私はリハ職の1人として各施設での介護予防の取り組みや、施設との連携、多職種によるケア会議の取り組みについて「57施設の現状と地域包括ケア・地域医療活動のアンケート調査」と題して報告してきました。栄養職では在院日数の短縮により早期退院が促進され、居宅に帰ってからの食事のトロミ等の形態の統一性が地域ごとにされており、地域でのツールの必要性を訴えていました。これから57施設の「在宅医療」や「連携ネットワーク」への取り組みの必要性がさらに増します。今回の学会スタートの場でコメディカルの役割と活動の報告を行い、ディスカッションの場に参加出来たことは大変有意義で嬉しく感じました。

リハビリテーション士長 江井 洋

JCHO地域医療総合学会にて「脳梗塞の既往がある女性への二重課題を用いたリハビリ介入にてADLが向上した一症例」の報告をポスターにて発表させていただきました。二日目の発表だったため、前日の夜から緊張と心臓の鼓動が聴こえるくらい震えていました。が、同行していた職員のおかげで無事発表を終えることができました。また、他の施設の発表も聴かせていただき、自分が勤めている病院や老健との違いや新しい知識を得ることができ勉強になりました。様々な勉強会や学会には積極的に参加し、自らのスキルアップにつなげると共に患者様や利用者様に満足していただけるような病院・老健づくりに貢献していきたいと思っております。

附属老健施設 理学療法士 小室 英生



JCHO学会に参加させていただき、「当施設のリスク対策」という題で発表を行いました。今年度のリスクマネジメント委員会で行なってきた環境チェックシートやプラカードの見直しについて発表し、改めて振り返ることが出来ました。また、他病院・施設の研究内容の発表も聞き、様々なことを学ぶことが出来、充実した経験となりました。今後は、今回学んできたことを施設で活かし、利用者様により良いサービスを提供できるよう努力していきたいと思っております。また今回の学会のみで満足せず、様々な学会・勉強会に参加し、自分のスキルアップにつなげていきたいとも感じました。

附属老健施設 介護福祉士 渡辺 翔太



発表者の6名です

夜の懇親会では  
院長先生を囲んでピース!!

ニッコリ



懇親会ではお酒も入り、皆な元気にイエ！イエ！

私は、26年度から取組んだ「鋼製小物器材の中央化」について発表してきました。緊張の4分間でした。他病院の発表演題も沢山聞き、勉強になりました。プロスキーヤー三浦雄一郎氏の特別講演では、人生いくつになっても、目標を持ち、努力し続けることの大切さを学びました。

それから、それから、夜の懇親会では、発表の時とは別人。みんな楽しそうでした。

中材手術室師長 齋藤 美智子



院内にずいぶん前から、貼られていた学会のポスターを見て、この高い建物のどこでやるのだろうかと思っていましたが、実際はこのポスターの反対側の建物でした。道理で違うはず…。夜空のビル街では、カラスが飛んでいて、都会のカラスは、やはり夜更かしなのではないでしょうか？都会を歩く人は早足で、田舎者の私は何度か、ぶつかりました。

“チームJCHOによる新しい地域医療のスタート”その中でも【チームJCHO 二本松病院】が一番まとまっており、おそらく記念写真数No.1のはずです。このチーム力で、地域医療のため、スタートダッシュしていきましょう!!

看護師 齋藤 祐美子



## 第4回

# 二本松病院地域協議会を開催しました

平成28年2月17日(水)18時30分から第4回二本松病院地域協議会が病院会議室にて行なわれました。はじめに六角院長から開会のあいさつを行なった後、議事に入る前に欠員となっていた委員と副委員長について、齋藤医院の齋藤浩樹先生に委員選出及び副委員長の指名を行ない了承されました。

まず、病院からの報告として、①平成27年12月までの収支状況②地域連携について③救急車受け入れ状況について④訪問看護ステーション及び訪問看護リハビリテーションの受け入れ状況について説明を行ないました。質疑応答では、「1人当たりの診療額」「材料費の削減方法」について委員より質問がありました。「救急車の受け入れ状況」については、安達地方広域行政組合消防本部三浦警防課長から、二本松病院への搬

送人数は平成26年1～12月の患者数よりも、平成27年1～12月の患者数が57名増加しており、さらに救急救命士4名の病院実習も受け入れをしていただき、隊員からも好評であった旨の報告があり、六角院長からは「当院では今後も出来るかぎり受け入れをしていきたい。」と回答しました。

つづいて、藤原事務長から平成27年12月に更新した最新MRIの紹介と、平成28年度事業計画の説明を行ない地域包括ケアの充実に向けた体制整備や取り組みについて具体的な意見交換会を行いました。最後に次回開催の予定をお知らせし、柳沼副院長の閉会のことばで第4回地域協議会を終了しました。

総務企画事務長補佐 村田 則久



▲協議会の風景



## 編集 後記

3月に入って梅の花がほころび始め温かく感じる日もありますが、まだまだ寒さが残る今日この頃です。皆さん体調はいかがですか？

インフルエンザも流行っていますので、ウィルスをやっつけるためにも「快眠・快食」で体力を維持し免疫力を高め、清々しい春を迎えられるようあとひと息頑張りましょう。

K.M記